

比江山造成工事着工

木材団地への引き渡しは今年末

高知県中央木材工業団地協同組合へ九億円で売却することになつた。

「比江山」の一部約一〇〇畝の造成工事の起工式が七月十七日、関

係者ら多数が出席して現地で行われ、今年十二月末の完成へ向けて

造成工事がスタートしました。

この「比江山」は、北部運動公園を作るために、市が四十六年から五十二年にかけて買収していたもので、全体で約一八〇畝。しかし、

その後の赤字財政の表面化にもならない運動公園実現の目的がたまたま、逆に借入金の金利が市の財政を圧迫。こうしたことから、この一部約一〇〇畝を県木材団地へ売却し、財政の立て直しを図ろうと、地元などと話し合いを進めてきたものです。

残地六〇畝（八畝のうち、広城農道と擁壁・土羽にそれぞれ一畝）の歴史公園への見直しはどうか、地元対策の充実など、今後にも多くの問題を残しているものの、今年二月の臨時市議会で「木材団地へ一〇〇畝を売却」が可決、また、この土地を市が造成して団地側へ引き渡すという売却時の条件にとまない、五月の臨時市議会でこの土地の「造成工事請負契約の締結（造成費四億二千万円）」が可決

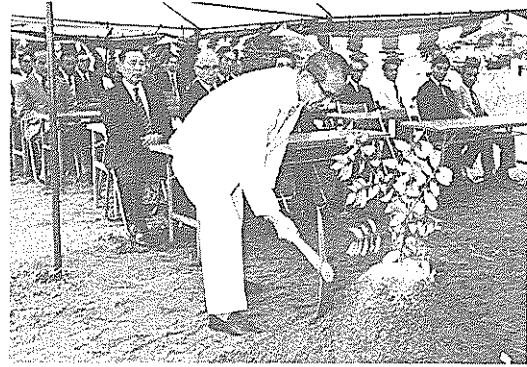
され、この日の起工式となりました。現地で行われた起工式には、小笠原市長ら市執行部をはじめ、中内知事、地元代表、木材団地側などから約六十人が出席。神事が行われたあと、小笠原市長が「県当局の英断、地元のご協力に感謝します。この工場敷地が工期内に完成し、初期の目的が達成できるよう、みなさんの一層のご協力をお願いします。」とあいさつ。続いて、来賓祝辞。中内知事が「長い長い道をやっとたどりついた、まず一つ肩の荷をおろしたという感じがします。難産の子は良く育つといいますが、将来は明るい見通しのある団地として希望がもてます。地権者をはじめ、周辺のみなさんには特にご協力をいただき、木材工業が高知県の基幹産業として発展できるよう、また木材団地が早く独り立ちできるようにお願いします。」また、三木正康木材団地理事長が「昭和四十七年十一月に結成以来、県の中央部に団地を求めて八年、南国市と五年の交渉のすえ、やっと起工式を迎えることになり、関係機関や地元のご

協力に感謝します。これからは、組合員一同初期の目的を達成すべくがんばって、何といっても地元との融和のもてる団地づくりを目指します。」と祝辞を述べ、工事の無事を祈りました。

今回の造成工事は、木材団地へ売却した一〇〇畝を、四億二千万円で、現在の標高五十一・二十八メートル、三十五メートルに下ろすというもので、今年十二月二十五日完成予定で、完成後に団地側へ引き渡されることとなります。

市の財政再建のカギをにぎるといわれる「比江山処分問題」市民にとつても関心の高いことと思われませんが、当日の式典に出席された谷勲園府地区比江山対策委員代表、久米末広久礼田部落総代らは「当初の目的であった運動公園、歴史公園の具体化がはつきりして着工してはよかった。「比江山」の姿が変わるのでさびしい気持ちがある。今後の水や風の問題による農業への影響が心配だ。木材団地ができる以上は、公害のない立派な団地になってほしい、地元との融和をまず考えてほしい」と話していました。

今回の起工式は、木材団地実現への「第一歩」といえますが、市にとつては、地元の最大の関心事である「歴史公園」の実現など、まだまだ多くの問題が残されています。



市民憲章

わたしたちの郷土南国市は、土佐文化の発祥地、そしてまた、清新な生産都市であります。この誇りのうえにたち、さらに一大飛躍発展をとげるために、次の信条を守りましょう。

☆文化財と自然を保護し、新しい文化のかおり高い歴史のまちを築きましょう。

☆青い空、清い海、緑の山野、そして豊かな太陽のふりそそぐ、健康で明るいまちにいたしましょう。

☆川は市民の顔、清くて豊かな流れをつくりましょう。

☆第三日曜日は家庭の日、全戸笑顔で子供を守り育てましょう。

☆老人は市民の宝、小さい親切運動と福祉の豊かなまちにいたしましょう。

☆三悪を追放し、交通事故のない住みよいまちにいたしましょう。